

2011年12月17日(土)

総合 午後5時30分～6時

のんびりゆったり 路線バスの旅「石垣島 男前ふたり旅」

路線バスにゆられて、のんびりゆったり旅をしよう。

今回訪れたのは沖縄本島から南西へ400kmの石垣島。

周囲160km、鉄道のないこの島を唯一の公共交通機関である路線バスでぐるりと1周したのは、ともに東京都出身の俳優・内田朝陽さんと平岳大さん。

今回が初対面だったとは思えないほど、おふたりがこの旅で打ち解けたのはきっと舞台が石垣島だったから…

心奪われる青い海、ゆったりと吹く風。

バスの車内は運転手さんもお客さんもみんなが知り合いで、旅人もすぐに仲間に入れてもらえて。

旅の終わりには石垣島から高速船で10分の竹富島にも足をのぼし、南の島のバス旅を満喫、大満足の男前たちでした。



旅人は俳優 内田朝陽さんと平岳大さん
今回が初対面でした



【お問い合わせ情報】

<旅程>

周囲およそ160kmの石垣島。石垣島バスターミナルを出発して西回りにぐるりと1周、1泊2日の旅をしました。さらに3日目の朝、高速船で竹富島に渡り、路線バスで港から集落、そしてビーチへ向かいました。

[1日目]

(1)石垣島バスターミナル→長間橋バス停（東運輸・吉原線）

石垣市の中心部にあるバスターミナルから旅をスタート。

バスターミナルでバス会社の方に、長間橋バス停近くでおいしい朝ごはんがいただけると教えてもらったので早速向かいました。

島を1周するバス路線は東周りと西周りがありますが、「長間橋」が西周り線のルート上だったため、今回は西周りでの旅となりました。

10分ほどで長間橋に到着。橋を渡って目の前に果てしなく続くさとうきび畑の中の1本道を「この先にお店なんかあるのかな」という不安と戦いながら進むと、左手に赤い看板が。

左折すると目指すお店、お豆腐屋さんがあります。朝6時半開店のお豆腐屋さんのできたての「ゆし豆腐」(沖縄独特の柔らかい豆

腐)をオープンデッキでいただけます。

優しい風に吹かれて、おなかに優しい島の朝ごはんを堪能した朝陽さん、平さんです。



(2)お豆腐屋さん→(徒歩)自然村入口バス停→米原ヤシ林入口 (東運輸・西伊原間線・下り)

お豆腐屋さんを後にし、散歩がてらひとつ先のバス停「自然村入口」まで歩きました。再びバスに乗り込み、西周りの旅を続けます。車内では手作りのお弁当を持って、リハビリのため毎日島をバスで1周しているという方との出会いがありました。その方とのおしゃべりはあまりに楽しく、夢中になって聞いている間に石垣島随一の景勝地・川平湾を通り過ぎてしまったほどです…。



潮の満ち引きやお天気によって様々な色合いに変化する川平湾



そこで「ヤシ林入口」という、なんだか南国風の名前のバス停で途中下車してみることに。

バス停「ヤシ林入口」の「ヤシ林」はヤエヤマヤシの群生のこと。ヤエヤマヤシは世界中に石垣と西表にしかない、石垣ではここ米原にしかないヤシの木です。高さ20m、500本もの群生に圧倒される…つもりだったのですが、あいにく雨が降り出してしまいました。朝陽さんと平さん、近くの石垣市立富野小中学校で先生に雨宿りさせていただくことになりました。

小学生14人、先生19人の小学校。ちょうど昼休み中ということで元気な子どもたちに案内されて校内を見せてもらうと、2階からは鬱蒼としたヤシ林が見え、図書室の窓の外では石垣牛がゆったり草を食べていました。

やがて雨が上がり、緑の芝生が美しい校庭で、みんなでサッカーの試合をしました！元気いっぱいの可愛い子どもたち！時の経つのも忘れて走りまわり、みんなでおなかの底から笑いました。1年生の男の子は試合後もずっと、平さんと手をつないでいてくれました。

富野小学校の皆さんは学校北側の海岸でサンゴの健康診断「コーラルウォッチ」を行っています。それぞれが「マイサンゴ」を担当、5月から10月の大潮の干潮時に観察し記録する活動です。



バス旅の守護神、まさかの失点！

(3)富野→伊原間（東運輸・西伊原間線・下り）

小学校最寄のバス停「富野」から乗車、伊原間で平野線に乗り換えます。

(4)伊原間→平野（東運輸・平野線・下り）

伊原間からは北上、石垣島最北端の集落・平野まで行きます。

右手に太平洋、左手に東シナ海をのぞみつつ、さとうきび畑の中を走るこの路線は石垣島の中でも最も素朴で心に残る風景の連続。路線バスの北の終点である平野にはバスの運転手さんが毎晩泊まる民宿があります。

最終便を運転してきて1泊し、翌日の朝1便を運行するのです。

ふたりが訪れた日も20時ごろ最終便のバスが無事到着。降りてきた運転手

さんが手にしていたのはなんとヤシガニでした！道歩いていたのをつかまえたそうで、そんなことは年に2回ほどしかないとのこと。

生きもの好きの朝陽さん、今回の旅でぜひ出会いたい、できれば食べたい！と願っていたのが実はヤシガニだったのです。

※ヤシガニとは…オカヤドカリ科 石垣島にも棲息する世界最大の陸生甲殻類の一種



自分たちもぜひヤシガニをつかまえたい！と大張りきりのふたり。1時間半ほど夜道で真剣な搜索を行った結果、なんと！平さんがヤシガニ発見！でもそれはのひらサイズの可愛い可愛いヤシガニでした。運転手さんから「島ではこぶしより小さいサイズはリリース」と教わり、もといた場所にそとにかえました。

乱獲による絶滅が心配されるヤシガニ。繁殖期(6~8月)にはとらない、こぶしより小さいものはとらないといったルールを守りましょう。

[2日目]

(1)平野→伊原間（東運輸・平野經由伊原間線）

2日は南へ向かいます。最北端の平野から伊原間に向かう朝一番の便(平野発7時30分)は伊原間中学校に通う子どもたちの大切なスクールバスでもあります。

次々と乗り込んでくる8人の中学生。高校は40~50km離れた島の中心部にあります。

島の最北部に暮らす彼ら、高校生になったら寮に入る子が多いと教えてくれました。

みんなが大好きなアニメの話で盛り上がっているうちにバスは伊原間へ到着。



玉取崎展望台からのぞむ伊原間方面

伊原間は細長い半島の付け根に位置し、東シナ海と太平洋に挟まれた場所で、その幅300m。南側にある玉取崎展望台(出発前に平さんが『そこからUFO見えますか?』と聞いていた展望台)からは細長い緑の半島と左右の青い海をのぞむことができます。海の美しさに開放感いっぱいふたり、道端の看板を見てシュノーケルがしたいと親子4代で営む海の家を訪ねました。

海人(うみんちゅ)としての経験から、その日の海のコンディションに合わせたポイント選びをする平良正吉(たいらしょうきち)さんと共に、石垣の海へ！出発前、前日にとったという巨大なゴシキエビ(イセエビ科)を見せてもらい、すっかりテンションが上がったふたりでしたが、いかんせんこの日は波の影響もあってボウズ。そのかわり、平良さんが前夜とったというグルクン(沖縄の県魚)のお寿司を船の上で馳走になり感激！



ダジャレ連発！平良さん

(2)伊原間の果物屋さん前→星野のコーヒー屋さん前（東運輸・平野線・上り）

海の家を後にしたふたりは歩いて果物屋さんへ。店頭には旬のドラゴンフルーツが並んでいました。両手いっぱいにお土産を買ってお店の前に立っていると、バス停でもないのにバスが止まりました。全路線の4分の3近く、具体的には「大嵩西入口」～「伊原間」～「白保終点」、「伊原間」～「平野」はバス停ではないところでも乗り降りできるフリー乗降ゾーンなのです。

だから、バスのお客さんに教えてもらった「星野の美味しいコーヒー屋さん」のまん前で（バス停ではありません）ふらりと途中下車することができました。訪ねたのは自家栽培のコーヒー豆を自家焙煎しているお店。ご主人の東内原稔さんは幾度となく台風被害に遭いながら、決して諦めることなく、ふるさと石垣でコーヒーを栽培するという夢をかなえた方です。コーヒー畑に連れて行っていただくと、そこは陰しい山の中の傾斜地。台風の時、海水を含んだ風がもたらす塩害を防ぐため、海からの風が当たらない斜面に畑を作ったそうです。



33年前にチャレンジを始め、最初の10年間は勤務地である沖縄本島から石垣島へ通ってコーヒーを育てたという東内原さん。



「台風の通り道である石垣島でコーヒー栽培なんてとみ一人なにすごく夢を笑われたから、意地があつて」

自然の地形を活かし、無農薬で手間暇かけて育てているため現在も収穫量が限られています。思いのこもったこのコーヒーは石垣島の、星野の、小さなお店でしかいただけない貴重な味なのです。

(3)星野のコーヒー屋さん前→石垣島バスターミナル（東運輸・西回1周線・上り）

時計回りに石垣島をぐるりと1周。男前ふたり旅、無事スタート地点のバスターミナルまで戻ってきました。

心に浮かぶ、たくさんの出会い・笑顔。「石垣島の皆さんに自分の良い面を引き出してもらえた。この土地と人々のおかげで初対面のふたりも自然に打ち解けられた」と感慨深いふたり。

しかし、旅はまだ終わりません。

[3日目]

(1)石垣島バスターミナル→石垣港離島ターミナル→竹富島

バスターミナルから徒歩1分、離島ターミナルから高速船で10分。あっという間に竹富島に到着です。竹富島もまた、路線バスでまわることができるという聞いて足をのびしました。

(2)竹富港→集落→ビーチ→港



港から集落まで2km。バスが集落に入っていく時の車窓風景は忘れられません。

花咲く石垣、赤瓦、白砂の道。竹富島の集落、その静かなたたずまいは国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

集落の中心にある「なごみの塔」に登れば街並や海が見渡せます。



「なごみの塔」



集落を一望！



階段が急で意外とスリリング！

集落からビーチへもバスで。ただしとても小さなバスなので港以外の場所から乗る時は電話による予約のお客さんが優先です。電話をする時は目印の番号(赤瓦に番号を書いたものが街のあちこちに置かれている)を伝えればより確実です。



バス会社に電話して「4番をお願いします」

あまりに美しい竹富島のビーチに朝陽さん、平さんは少年のようにはしゃいでいました



<問い合わせ>

[バス関連]

● 石垣島 東(あずま)運輸株式会社 0980-82-2054

※今回の旅では5日間フリーパス「みちくさフリーパス」2000円を購入

● 竹富島 有限会社 竹富島交通 0980-85-2154

※港→集落200円

港→ビーチ300円

[その他の問い合わせ先]

● 石垣島 石垣市企画部観光課 0980-82-1535

(お豆腐屋さん・川平湾・富野小学校・最北端の民宿・シュノーケリングをした海の家・玉取崎展望台・石垣島産のコーヒーについて)

● 竹富島 竹富公民館 080-1799-2424

(竹富島の観光について)